

妙正寺 東京都杉並区清水 3-5-10

文和元年（1352）創建の日蓮宗の寺院で久遠実成本師釈迦牟尼仏・日蓮聖人・十界曼荼羅を本尊とし、日祐上人御真筆の十界曼荼羅一軸が所蔵されている。寺傳によると慶安二年（1649）三代将軍家光公が鷹狩りの折、三十番神前において武運長久を祈願して葵の紋幕と寺領五石の御朱印を寄進されたことにより御朱印寺として有名になった。

生毛鬼子母神とよばれる等身大の立像があり元は江戸城大奥に祀られていたが、十二代将軍家慶の治世、老中水野忠邦の行った天保の改革に際し移されてきた。父十一代将軍家斉には五十人からの子女がおり子供達の安産と幸せを願い鬼子母神像をつくり、大奥の女性の毛髪の提供を受けてこの像の頭髪としたものでそのため生毛と呼ばれている。また、妙正寺池の中島に以前は弁天堂があったが現在ご本尊の弁財天は当山に移座されている。

当寺の周辺には妙正寺川の水源となる妙正寺池を中心とした妙正寺公園があり、当寺院がそれらの名の由来となっている。（新編武蔵風土記稿）（杉並区教育委員会）



維新後の神仏分離令（明治元年）によって天祖神社と改称される



手水は寒いので凍っている

“下ペロ餅”という丸餅を参拝者に配りこの餅を食べると子宝が授かるといういわれの碑



天祖神社の隣地にある妙正寺の山門と碑



本殿



扁額は山号の法光山



昭和 38 年に建て替えられた梵鐘



天才囲碁師本因坊 6 世知伯の墓碑